

130 No. 10: 日本秋遊文化祭—食で誘客促進を支援— (平成 30 年 10 月 30 日)

観光庁のデータによれば、観光やレジャー目的で日本を訪れる外国人観光客の 2017 年の平均泊数は 5.8 泊。欧州や米国、カナダ、豪州は 10 泊以上と長く、逆にアジアは平均泊数が短くて台湾は 5.1 泊、香港は 5.6 泊となっている。

一般的に泊数が増えて滞在日数が伸びれば消費も拡大し、また、地方都市に足を伸ばすことも期待される。このため、日本政府観光局香港事務所では「ゆるたび」をコンセプトとして、「リラックス」して「居心地よく」「ゆっくりしたペース」で日本を旅行してもらうためのプロモーションを展開している。その一環として、^{しょうぐんおう}将軍澳にあるイースト・ポイント・シティのアトリウムにおいて「日本秋遊文化祭（ゆるたび文化祭）」が開催された。



【日本秋遊文化祭の様子】

9 月 29 日～10 月 1 日の 3 日間で延べ 1 万人以上の来場者が訪れ、各出展者の工夫を凝らした「ゆるたび」を楽しんでいた。栃木県ブースでは、シトロン（足利市）の協力を得て、美と健康の観点から「ゆるたび」を提案した。栃木県産オーガニック野菜などを使った美スムージーを使用し、料理の実演・試食、ボタニカルパフェ作り体験を提供した。

試食の「グリーンスムージーのポタージュ和風仕立て」はあっという間に長蛇の列ができた。香港人の「食」に対する意識の高さがうかがえる。

ところで、思い立ったことをすぐに実行に移したいといわれている香港人にとって、香港の日常はストレス社会であるが、世界トップ水準の長寿社会でもあり、健康志向が強く、女性は美容への関心も高い。「食」に関して、健康、美容にも良いという点をアピールできれば、より香港人の関心を引き、観光客の増加が期待できるだろう。実際、多くの人にシトロンのお店の場所を聞かれた。「食」は香港人にとって最大の癒しなのである。

また、あしかがフラワーパーク、さらには日光東照宮など、「今度栃木に行ってみたい」という人が少なくなかった。

なお、シトロンは今年 2 回目の来港である。前回フードエキスポに出展し、多くのバイヤーとつながったが、今回はさらに実のある商談を行うことができた。「食」による販路拡大・誘客促進の好循環が生まれるよう支援したい。

毛塚 隆弘(けづか たかひろ)

栃木県香港事務所所長。

1993 年県庁入庁。産業政策課、国際課などを経て日本貿易振興機構（ジェトロ）に出向。2017 年 4 月から現職。栃木市出身。